

定期作況報告

平成18年8月
(8月20日現在)

北海道立北見農業試験場

1. 気象経過

7月下旬：最高気温は平年よりやや低く、最低気温は平年より極めて低く、平均気温は平年より低かった。降水量は平年より少なかった（平年比11％）。日照時間は平年より多かった（平年比168％）。

8月上旬：最高気温、平均気温は平年より極めて高く、最低気温は平年より高かった。降水量は平年よりやや少なかった（平年比74％）。日照時間は平年より多かった（平年比151％）。

8月中旬：最高気温、最低気温、平均気温はともに平年より極めて高かった。降水量は平年より極めて多かった（平年比537％）。日照時間は平年並みであった（平年比94％）。

以上のことから、この1か月間（7月下旬～8月中旬）は平年と比較して、気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年よりやや多かった。

注）降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

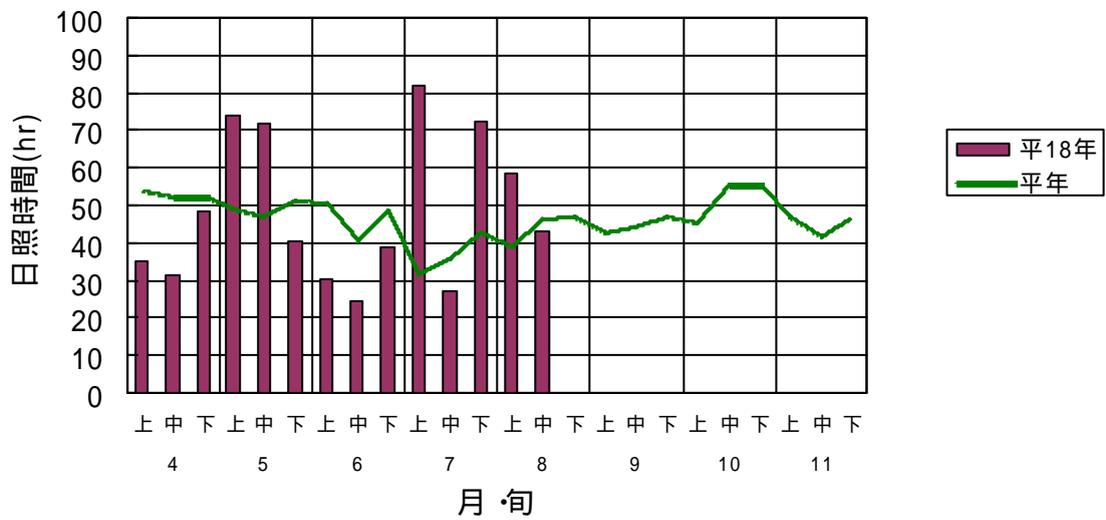
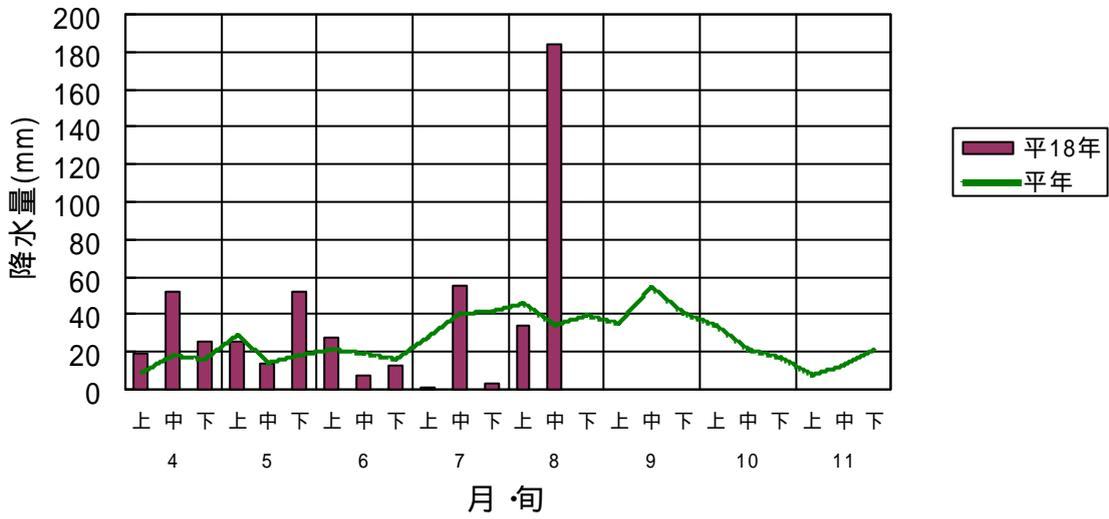
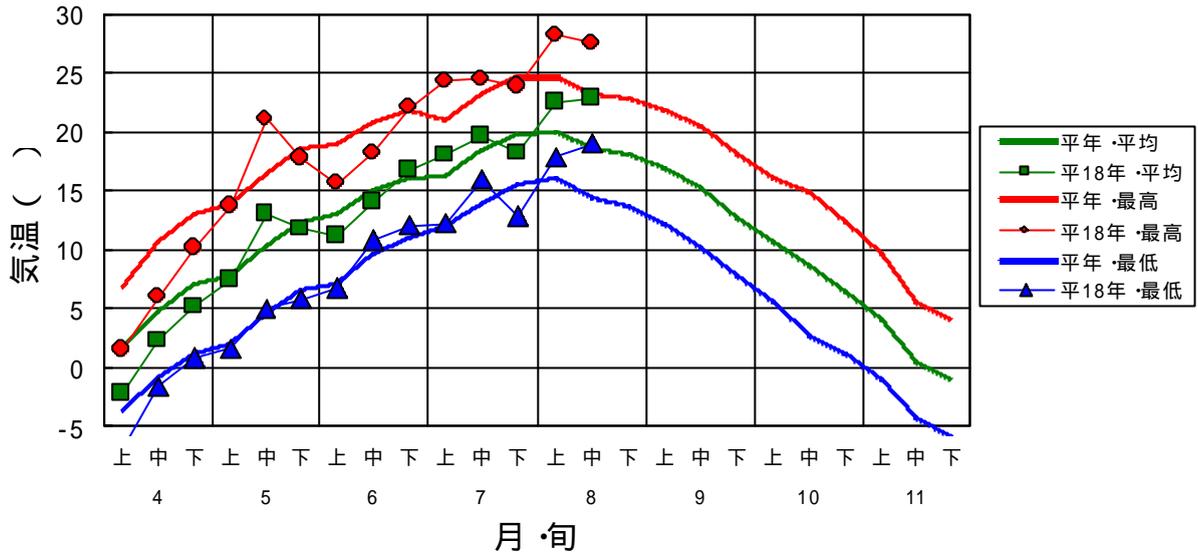
気象表

項目 月旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
7月下旬	18.3	19.9	1.6	23.9	24.7	0.8	12.9	15.6	2.7
8月上旬	22.5	20.0	2.5	28.2	24.6	3.6	17.9	16.2	1.7
8月中旬	23.0	18.6	4.4	27.6	23.2	4.4	19.1	14.3	4.8
平均	21.2	19.5	1.7	26.5	24.2	2.3	16.5	15.4	1.1

項目 月旬	降水量（mm）			日照時間（h）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
7月下旬	4.5	42.6	38.1	72.6	43.1	29.5
8月上旬	34.5	46.8	12.3	58.4	38.7	19.7
8月中旬	183.5	34.2	149.3	43.3	46.3	3.0
合計	222.5	123.6	98.9	174.3	128.1	46.2

注） 1）観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2）平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作況：不良

事由：7月下旬の気温が平年より低く推移したため、登熟が緩慢となり成熟期は平年より4～5日遅れた。倒伏は「タクネコムギ」の一部で発生したが、他品種では発生しなかった。前回報告したように、穂数は平年並であったが、穂長は平年よりやや短かった。開花期前後の低温が原因と考えられる不稔の発生がみられたことから、1穂粒数は平年より少ないものと思われる。千粒重は平年並かやや上回った。リットル重は平年並かやや下回った。子実重は平年より低く、特に「タクネコムギ」「ホクシン」では平年の8割程度であった。1穂粒数不足が影響したものと考えられる。外観品質は平年並かやや劣っている。

以上のことから目下の作況は「不良」である。

調査項目	タクネコムギ			ホクシン			ホロシリコムギ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (平成18年月.日)	7.25	7.20	5	7.27	7.23	4	7.31	7.27	4
子実重(kg/10a)	443	538	95	515	623	108	541	582	41
同上平年比(%)	82	100	18	82	100	18	93	100	7
リットル重(g)	802	808	6	812	814	2	793	807	14
千粒重(g)	40.3	37.3	3.0	40.1	39.0	1.1	43.5	43.5	0.0

注) 平年値は前7か年中、「タクネコムギ」、「ホクシン」は平成14年(最凶)、15年(最豊)、「ホロシリコムギ」は平成11年(最凶)、15(最豊)年を除く5か年の平均。「ホクシン」の播種量は255粒/㎡、その他の品種の播種量は340粒/㎡。

2) 春まき小麦 作況：良

事由：生育が遅れていたが、8月上旬の高温により成熟期は平年並となり、登熟期間が短くなった。このため千粒重は軽くなったが、日照時間が多く概ね良好に登熟しており、生育量が多かったことから、子実重は多収となった。

以上のことから目下の作況は「良」である。

調査項目	ハルユタカ			春よ恋		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	8.8	8.8	0	8.8	8.7	1
子実重(kg/10a)	529	398	131	566	418	148
同上平年比(%)	133	100	33	135	100	35
リットル重(g)	821	809	12	828	817	11
千粒重(g)	39.8	41.2	1.4	41.0	43.5	2.5

注) 「ハルユタカ」の平年値は過去7か年中、平成12年(最凶)、平成17年(最豊)を除く5か年平均。「春よ恋」の平年値は過去5か年中、平成14年(最凶)、平成17年(最豊)を除く3か年平均。

3)とうもろこし(サイレージ用) 作 況：平年並

事 由：7月下旬が平年より低温に経過したことから開花期・抽糸期は平年より1日遅れた。8月上旬～中旬が平年より高温に経過したことから生育の遅れは回復し、草丈および葉数は平年並である。
以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目		ディアHT		
		本年	平年	比較
開花期	(月.日)	8.5	8.4	1
抽糸期	(月.日)	8.7	8.6	1
草丈(cm)	(8月20日)	256	257	1
葉数(枚)	(8月20日)	13.6	13.7	0.1

注) 平年値は前7か年のうち平成16年(最豊)、17年(最凶)を除く5か年の平均。

4)大 豆 作 況：やや良

事 由：7月下旬の気温は平年よりやや低く、開花始は平年より1～2日遅かった。8月上旬以降は高温に推移した。主茎長および主茎節数は概ね平年並、分枝数はやや多かった。着莢は良好で、着莢数は平年を「トヨコマチ」が8%、「トヨホマレ」が18%上回っている。
以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目		トヨコマチ			トヨホマレ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始	(月.日)	7.21	7.19	2	7.23	7.22	1
主茎長(cm)	(8月20日)	55.1	59.0	3.9	51.5	54.4	2.9
主節節数	(8月20日)	10.6	11.2	0.6	10.9	11.4	0.5
分枝数(本/株)	(8月20日)	6.9	5.4	1.5	5.4	4.7	0.7
着莢数(個/株)	(8月20日)	73.4	67.7	5.7	89.0	75.5	13.5

注) 平年値は、前7か年中平成13年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

5) 小豆

作況：やや良

事由：7月下旬の気温は平年よりやや低く、開花始は平年より3日遅かった。8月上旬以降は高温に推移した。主茎長は概ね平年並、主茎節数はやや多く、分枝数は平年並からやや少なかった。着莢は良好で、着莢数は平年を「エリモショウズ」が18%、「サホロショウズ」が14%上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目		エリモショウズ			サホロショウズ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始	(月・日)	7.29	7.26	3	7.27	7.24	3
主茎長(cm)	(8月20日)	51.7	55.1	3.4	50.5	46.2	4.3
主節節数	(8月20日)	14.0	13.1	0.9	12.6	11.0	1.6
分枝数(本/株)	(8月20日)	3.8	4.0	0.2	3.8	4.4	0.6
着莢数(個/株)	(8月20日)	40.1	33.9	6.2	48.5	42.6	5.9

注) 平年値は、前8か年中平成10年(最凶)、17年(最豊)および試験を中止した12年を除く5か年の平均。

6) 菜豆

作況：平年並

事由：7月下旬の気温は平年よりやや低かったが、8月上旬以降は高温に推移した。主茎長、主茎節数および分枝数は平年並からやや少なく、着莢数は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目		大正金時			福勝		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
主茎長(cm)	(8月20日)	36.3	40.1	3.8	37.3	42.4	5.1
主節節数	(8月20日)	5.1	5.4	0.3	5.3	5.7	0.4
分枝数(本/株)	(8月20日)	3.7	4.5	0.8	3.8	4.0	0.2
着莢数(個/株)	(8月20日)	23.6	22.4	1.2	21.0	20.7	0.3

注) 平年値は、前7か年中平成11年(最凶)、13年(最豊)を除く5か年の平均。

7) ばれいしょ 作 況：やや良

事 由：7月下旬から早魓気味で推移したが、8月上旬の大雨により、塊茎肥大が急激に進行したため早生の「男爵薯」は上いも重が平年比 111%となった。一方、生育が遅れていた中晩生の「コナフブキ」も8月上旬の大雨で塊茎肥大が進行し、上いも重は平年並となったものの、茎長の伸長もかなり進んだため、でん粉価の上昇は抑制され平年を2ポイント下回った。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である

調査項目		男爵薯			コナフブキ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎長(cm)	(8月20日)	41	38	3	79	80	1
茎数(本/株)	(8月20日)	2.7	3.4	0.7	2.8	2.7	0.1
上いも重(kg/10a)	(8月20日)	4477	4036	441	3438	3398	40
でん粉価(%)	(8月20日)	15.9	16.3	0.4	19.6	21.6	2.0

注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」は平成15(最凶)、17年(最豊)を、「コナフブキ」は平成14(最豊)、15年(最凶)を除く5か年の平均。

8) てんさい 作 況：やや良

事 由：茎葉生長速度の最も早い7月下旬に低温・乾燥が続いたため、地上部の生長は抑制されたままであるが、8月上旬の高温時にも萎れはほとんど観察されなかった。また、根重生長速度の最も早い7月末から8月中旬にかけて高温が続いた上に、短期間にまとまった降雨があったため、地下部の肥大は急速にすすみ、根重は移植栽培では平年を16~27%上回り、直播栽培では平年を8%上回りっている。以上のことから現在の作況は「やや良」である。

調査項目		移植						直播		
		モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較		平年	比較
草丈(cm)	(8月20日)	54.5	64.6	10.1	51.6	60.6	9.0	58.3	64.8	6.5
生葉数(枚)	(8月20日)	28.2	27.8	0.4	28.3	26.4	1.9	26.1	25.9	0.2
茎葉重(g/個体)	(8月20日)	731	957	226	793	961	168	755	881	126
根重(g/個体)	(8月20日)	718	565	153	711	613	98	455	421	34
根周(cm)	(8月20日)	31.6	27.9	3.7	32.3	30.4	1.9	25.6	25.0	0.6

注) 平年値は前7か年中、直播「モノホマレ」は平成11年(最凶)、16年(最豊)、移植「モノホマレ」は平成11年(最凶)、17年(最豊)、「アーベント」は平成11年(最凶)、16年(最豊)をそれぞれ除く5か年の平均。

9) 牧草(チモシー) 作況: 平年並

事由: 8月11日に収穫した2番草は、草丈が平年より低く、乾物率が平年より高く、乾物収量は平年比50%と少なかった。これは7月上旬、下旬および8月上旬の降水量が平年より少なかったことなどにより、湿潤を好むチモシーの生育が不良になったためと考えられる。1番草と2番草の合計乾物収量の平年比は102%である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ノサップ			
	本年	平年	比較	
節間伸長程度	2番草	3.0	3.6	0.6
刈取日	2番草	8.11	8.7	4
病害罹病程度	2番草	3.0	3.4	0.4
草丈(cm)	2番草	50	68	18
生草収量(kg/10a)	2番草	555	1179	624
乾物率(%)	2番草	23.4	22.2	1.2
乾物収量(kg/10a)	2番草	130	259	129

注) 平年値は前4か年の平均(耕種概要・調査項目が大幅に変更されたため)。

病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

10) たまねぎ 作況: やや不良(参考)

事由: 7月下旬から8月上旬まで続いた干ばつ、8月上旬からの高温により茎葉の生育および球肥大は停滞し、地上部は葉先枯れ症状が目立った。倒伏期は「改良オホーツク1号」では平年より3日早い8月1日、「スーパー北もみじ」では平年より1日早い8月12日であった。「改良オホーツク1号」は8月12日に根切りを実施し、8月20日に枯葉期に至っている。球生重は「改良オホーツク1号」で平年より約8%少なく、「スーパー北もみじ」は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期 (月.日)	7.8	7.8	0	7.24	7.21	3
倒伏期 (月.日)	8.1	8.4	3	8.12	8.13	1
枯葉期 (月.日)	8.20	8.26	6		9.9	
球生重(g) (8月20日)	209.0	227.6	18.6	245.2	248.6	3.4

注) 平均値は、沖積土壌で試験を開始した平成15年から平成17年までの3か年の平均。